

# 早期発見、治療に有効

## 新結核検査をシステム化

県内で毎年三百人余の新規患者が発生している結核で、「クオンティフェロン」と呼ばれる新しい検査方法が、患者の早期発見と的確な治療に効果をもたらしている。琉球大学医学部第一内科の藤田次郎教授を中心としたスタッフが、産学連携で検査をシステム化。従来のツベルクリン反応に比べ、短期間でより正確な判定ができるのが特徴で、感染の疑いのある人への無駄な治療薬の投与を防げるといふ。藤田教授は「離島県沖縄での早期診断、早期治療にとっても有効。多くの病院で活用してほしい」と話している。



県内で結核の新規患者の確立に取り組んだ琉球大学医学部の（左から）藤山助教、藤田教授、宮城医師ら。20日、琉球大学医学部

## 産学連携で実現 琉球大学医学部 ファルコバイオ社

### 問い合わせ急増

「クオンティフェロン」検査は、一九九五年にデンマークで開発された結核診断法で、患者らから採血した血を培養し、そこで発生する特定物質「インターフェロニー」の量を測定するといふもの。①ツベルクリン反応に比べBCG接種の影響を受けない②反応を数値で測定できる③病院で再診することなく一度の採血で診断できる④翌日に結果が分かる一などの利点がある。近年日本でも注目されている。

ただ、採血後十二時間以内に検査する必要があり、昨年末では検査機関が千葉県内にしかなかったことから、航空機で搬送するなど時間的制約がネックとなっていた。

藤田教授らは、同検査が今後の結核診療に必要になってくると予測。昨

年五月から、徳山正男助教、宮城一也医師らスタッフで、検査体制の確立に取り組んだ。その結果、今年一月には、検査業者の「ファルコバイオシステムズ」が、県内にラボを設置し外注検査を開始。同検査が保険適用されたこともあり、今年二月以降検査件数は増加傾向となっている。

この取り組みが全国に伝わり、現在では大学病院や研究所などからの問い合わせが急増。逆に本土から沖縄に検査が回ってくる状態という。

県内の結核患者は、二〇〇三年から〇五年までの三年間は約三百から三百三十人前後で、ほぼ横ばいで推移している。藤田教授はこの検査は、肺結核だけでなく、肺外結核の早期診断にも有効。今後は、治療後の検査結果も調査していきたいと話した。